

インドネシア・マカッサル市における炭素クレジットの環境・経済影響評価

豊橋技術科学大学大学院 建築・都市システム学専攻

福田堯秀, 宮田 譲, 洪澤博幸

アブストラクト

近年、地球温暖化が地球規模の問題として認識されている。地球温暖化により、極地における氷の融解による海面上昇、異常気象による穀物生産量の低下、野生生物の絶滅の危機など、人類と生物の基盤を脅かす恐れが生じると指摘されている。また、世界の平均気温に対して気温上昇を 2℃程度に抑える必要があるとされている。その原因となっている CO₂排出量の削減は世界共通の課題であり、省エネ技術や電気自動車、再生可能エネルギーなど、対策が進められている。その一つとして炭素クレジットが挙げられる。炭素クレジットは排出枠を買うことで、その枠分の CO₂排出量を補填できる手法である。本研究はその炭素クレジットに注目している。これまで都市レベルにおける炭素クレジット導入による環境・経済影響分析はほとんどないと言えよう。本研究の対象地域は東インドネシアの主要都市であるマカッサル市としている。その理由としてインドネシアでは焼畑や泥炭地の分解による CO₂排出量を考慮すると、世界第3位の CO₂排出国となるからである。また、インドネシアでの分析は他の発展途上国におけるモデルケースともなりうることも挙げられる。本研究ではマカッサル市について応用一般均衡（CGE）モデルを構築し、マカッサル市で炭素クレジットを発行した場合の環境及び経済的影響を分析することを目的としている。